



札幌が北半球の中心と
誇りを持って
(小檜山氏)

谷口 地域の連帯感が、市内唯一の環境モデル区としての取り組みへの積極的な参加につながっていると思います。環境に優しい生活をする事を宣言する「エコライフ10万人宣言」には平成十八年十月末に市内で宣言者が十万人を超えましたが、西区では二万人が宣言しています。また子どもの宣言者は西区が全体の三十五割を占めています。子どもたちも含め、身近なところから無理のない範囲で、長く続けていただける取り組みを進めています。

小檜山 かつて、これは西区だけではなく、北海道全体で自然が豊かであるから開発しようというものでしたが、これからは自然が豊かだから自然を壊さないようにしていくべきだと思います。

僕は米や麦以外、狭い土地ですが野菜や果物など、ほとんど自分で作っています。自分で作ればおいしくて安全というのものがあるのですが、基本的にそういう物ができる所に住んでいる幸運、これを感じるわけですね。また作家仲間からは「こんないい所に住んでいたら小説が書けないから地下室で書かない」と言われています。さらに「いくらで買ったんだ」と聞かれたときは、「一億二千五百万円では

なければ売らない」と答えています。みんなびっくりするわけですが、「この風景をやらんさない。海が見えて、街が下に見えるなら安いと思いませんか」と大ほらを吹いてやるのです。人間が自然の中の一つの要素に過ぎないとすれば、自然がなければ人間というのは壊れていく。気持ち育てるのに西区は絶好の場所だと思っております。

谷口 本当におっしゃるとおりですね。緑も含めて子どもたち、そのまた子どもたちも伝えていけるような取り組みをしたいと思っています。こういう時代だからこそ、原点に返って住民の団結力で地域の問題を解決していくことができます。必要だと思います。

小檜山 僕はここの住民なので、ここに住んで、この素晴らしいさは誇りに思っています。

です。世界中を旅して思うことは、北海道は群を抜いて良いということですね。何でもできるといふ発想の自由さがある、平等があつて、人の心が豊かであることは、抜群に良いのです。

僕が考えるのは、北海道が北にあるとか、札幌が日本の北にあるとかではなくて、地球を回ってみると札幌は北半球の中心だということが分かります。北半球のど真ん中で、環境がこんなにすごい所はないのです。ですから、ここに住んでいる人たちには自分がいかに恵まれている所に住んでいるのか再認識し、誇りを持ってもらいたいと思います。これからも、この風土の寒さや厳しさや素晴らしいさの中に身を置いて、北海道の持つすごさを書き続けたいと思います。



こひやま・はく 作家。1937年網走管内滝上町生まれ。神田日勝記念美術館館長。北海道教育大学特任教授。『出刃』で北方文芸賞受賞。『光る女』で泉鏡花文学賞と北海道新聞文学賞受賞。1997年札幌芸術賞受賞。1998年滝上町社会功労賞受賞。2003年『光る大雪』で木山捷平文学賞受賞。2005年北海道文化賞受賞。2006年10月柏舎倉から『小檜山博全集』(全8巻)刊行。西区平和在住。